

○目的

- ・学校、登山ボランティア、学校支援コーディネーター等の意思の疎通、関係強化を図る。
- ・情報交換、反省要望を基に、今後の活動及び次年度の計画に生かす。

○期 日 令和3年9月27日(月)

○会 場 白石市立白石第一小学校

○参加者

〔学校担当者〕

- ・白石第一小学校 主 幹 半澤 勇記 氏
- ・白石第二小学校 教 諭 長橋 政之 氏
- ・越河小学校 教 諭 村上 篤 氏
- ・大平小学校 教 諭 我妻 宏昭 氏
- ・大鷹沢小学校 教 諭 高橋 研一 氏
- ・白川小学校 校 長 黒川 長寛 氏
- ・福岡小学校 教 諭 斎藤 優士 氏
- ・深谷小学校 教 頭 阿部 彩子 氏

〔登山ボランティア〕

- ・跡部 隆氏(山遭救助)
- ・熊谷弘一氏(山遭救助)
- ・志村良子氏
- ・櫻田和子氏(兼放課後子供教室コーディネーター)
- ・高橋 晃氏(兼学校支援コーディネーター)

〔事務局〕

- ・日下忠績(白石市教育委員会生涯学習課長)
- ・門間由香(係長)
- ・高橋 晃(兼学校支援コーディネーター)

○活動のねらい

- ・教育課程の一つと捉え、特別活動(集団宿泊活動・自然体験活動)、総合的な学習の時間の充実を図るとともに、自然の美しさ、雄大さ、自然への畏敬の念を抱かせる。
- ・集団生活・活動を行うことで、社会性・規範意識の育成を育む。また、根気強さや達成感

を味わわせる機会として自己肯定感、非認知能力を高めるとともに、登山活動文化の継承を図る。

・地域学校協働活動の取組として、児童生徒の教育的課題の共有や支援を図り、地域の自然遺産に触れることで、ふるさとの豊かさを実感する。また、ふるさとへの誇り、愛着、共感、人と人との関わり等の市民意識(シビックプライド)を醸成する。



登山ボランティア・担当者会の様子

○支援内容

- ・登山引率(グループ・個人支援、全体掌握、コース案内)
- ・下見、天候急変時のアドバイス
- ・打ち合わせ
- ・自然観察時の学習支援 等

○支援までの流れ

各校の年間行事予定に基づき、6月から10月までの予定をボランティアに連絡し、支援可能な期日を報告していただく。



各校の支援人数を確認・割り振りをし、ボランティアに支援要請をする。承諾を得たボランティア名を学校へ連絡する。

学校からボランティアに連絡を入れ、計画書や関係書類を送付し、打合せを行う。



下見、当日の支援、振り返り 等



登山ボランティア支援の様子

○登山支援の成果、感想等

- ・毎年協力いただいていることに感謝している。60名近くの児童を引率教員だけでは見ることができないので、助かっています。
- ・実地踏査の際に、高山植物、登山ルート、休憩場所、配慮を要する児童への様々なアドバイスをしてもらうとともに、登山当日の天候によって、適切な登山ルートのアドバイスをいただき感謝している。
- ・事前に打合せしたことで、当日スムーズに活動することができました。
- ・今年度は、2名のボランティア様に御協力いただきました。登山途中、具合が悪くなった児童へも迅速且つ適切な対応をしていただき大変助かりました。
- ・山に詳しいボランティアの皆様だと安心して取り組むことができます。雨天時のアドバイスや安全に配慮した声掛けに感謝しています。
- ・登山活動の計画作成の段階から、学校側の様々な質問に対する丁寧な助言をいただき大変感謝しております。

- ・下見の段階からボランティアの方々においでいただき、およその時間や休憩ポイント等について助言をいただいたので、当日は引率者全員がゆとりをもって指導にあたることができました。
- ・今年度は、予定していたコースが落石等の関係で登山不可となった。下見していないコース（狐が森コース）での実施に変更せざるを得なかったが、登山ボランティアの方がいてくださったことで、安心して実施することができた。
- ・植物などの自然についても教えていただきながらの登山は、子供たちの知的好奇心を刺激する機会となり、大変ありがたかった。子供たちは、川を渡ったり、ロープでのぼったり、アスレチックみたいでとても楽しいコースだったとの感想をもった。



○教育事務所から

「白石市地域学校協働活動登山ボランティア・担当者会」では、各校の担当者がボランティアの方々に感謝の言葉を伝えるとともに、登山体験を通して成長した児童の様子を語り合いました。登山ボランティアの熊谷弘一氏は「子供たちの笑顔が大好き。ふるさとに素晴らしい山があることを知ってほしい」と話せば、櫻田和子氏は「自然の豊かさ、雄大さ、登り切った時に抱く、あの達成感を味わわせたい。」と熱く話してくれました。今後も、登山ボランティアの皆さんの協力をいただき、登山活動が充実していくことを願っております。

(文責：大河原教育事務所生涯学習担当)

- 市町名 角田市
○学校名 角田市立西根小学校
全学年 49名
○期 日 令和3年9月18日(土)
○内 容

全校児童が西根地区子ども会育成会の協力をいただきながら、田植えや稲刈りを体験的に学習する。また、今年度は実施できなかったが、東京都目黒区立月光原小学校の児童や父兄の有志との交流の場ともなっていた。

- 講 師
西根地区子ども会育成会
井上 眞弘 氏



- 指導補助
西根地区子ども会育成会
佐藤 高行 氏 堀米 浩二 氏
太田 康博 氏 佐藤 吉正 氏
鈴木 文丈 氏 西根小学校教職員

○児童の声

雨の中大変だったけど、稲をたくさんたくさん刈りたかったです。今年で最後なのが悲しいです。また稲刈りをしたいです。その時は、いっぱい取りたいです。

お父さんと来る時に晴れて嬉しかったです。今年する時も晴れてほしいです。井上おんちゃんや他の人も教えてくれたり、手伝ってくれたりしてくれて嬉しかったです。私はお餅を食べるのが楽しみです。 (1学年・鈴木 えみ)

最後の稲刈りだったけど、8株しか刈れなくて残念でした。稲がザクッと切れて、とても気持ち良かったです。最後の稲刈りで寂しかったけど、とても楽しかったです。ぼくは、早くきなこ餅にして食べたいです。北郷小でも稲刈りや田植えをしたいです。 (2学年・伊藤 暖)

その日は雨が降っていたけど、稲刈りができるようになって、たてわりグループごとに田んぼまで歩いて行きました。春に植えた稲も大きくなっていて驚きました。稲を刈るときに力が予想以上に必要だったので「こんなに力があるんだな」と思いました。今年最後の稲刈りだったので思いを込めて稲を刈りました。大人になって、もしやるようになったら学校で教わったことを意識して植えたかたや稲を刈ることにしたいです。色々と詳しく教えてもらったので上手にやれることができました。これから北郷小学校に行っても教えてもらったことを忘れないようにしたいです。

(3学年・太田 初菜)

私は稲刈りの時、いつも地域の方にありがたいなあとと思っています。今年も地域の方が朝早く起きて、いろいろ準備をしてくださいました。

この日は雨も降っていたので、私たちがやりやすいように、8株だけ刈ることになりました。また、みんなが分かりやすいように体育館の中で稲を刈って見せてくださいました。おかげで雨の中でも私は一生懸命稲を刈ることができました。特に鎌を持つ力の加減をしながら刈りました。そして、刈った稲を落とさないように学校まで大切に運ぶことができました。

地域の皆様、本当にありがとうございました。

(4学年・草野 夢)



私は、始めの会で育成会の方々から鎌の使い方を教えてもらい自分で稲を刈ることができました。せんだんグループでの稲刈りだったので、下の学年に教わった鎌の使い方を丁寧に教えてあげることができ、下の学年の友達も上手に稲を刈ることができました。刈った稲を自分たちで運んだり、結んだりして、収穫の喜びを味わうことができてよかったです。（5学年・佐藤 美音）

土曜日に行った稲刈りは、天候が雨でできるかわかりませんでしたが無事、行うことができました。稲刈りでは、6年生を中心に1人8株、稲を刈ることになり、私は、班のみんなと協力して活動することができました。また、低学年に鎌の使い方を教えたり、他の人に気を配ったりして稲を刈ることができました。最後の稲刈りだったけど、刈ることができて嬉しかったです。みんなで刈った稲が無事、おいしいお米になるといいなと思いました。（6学年・田口 莉子）



○講師から

全校稲刈り体験活動は、西根地区子ども会育成会が主体となって支援している事業です。私は毎年春の田植え指導と秋の稲刈り指導を担当しています。今年で19年目になりますが、目黒区立月光原小学校との交流を始めてから月光原小学校の子どもたちも含めて、指導してきました。今年で終わってしまうことは本当に残念でなりません。

西根小で米づくりをしている品種は「みやごがねもち」です。収穫した米は、西根小と月光原小の頭文字を使い、「西の月米」として、5年生が1

kgの袋に詰めて、保護者などに販売をしています。数年前までは「感謝の会」でもちをついて、全校児童で「実りに感謝」しながら、食べていました。

米づくりをとおして、学んでほしいことは、米の繁殖力のすごさ（1粒から何百もの粒に増える力）、米が主食として日本人の食を支えていること、米は土と水と太陽の力を最大限に活かして育っていく作物であること、現在は機械化が進み、田植え・稲刈りは機械で行われていますが、昔は手植え・手刈りが行われていたことなどです。

私の思いが子どもたちにどれくらい伝わっているかわかりませんが、「西根小で米づくりの体験したことを一生大事にしていてもらいたい」ということが私からの最後のメッセージです。

（西根地区子ども会育成会・井上 眞弘）

○教職員の声

子どもたちは、今回の稲刈り体験を通して、自分たちで育ててきたお米を収穫する喜びとたくさんの人たちの協力で実施できた感謝を感じることができました。また、自分たちの手で収穫したことで、地域で育てている品種や成長の過程などに興味を持つことができました。今回の学習のために、ご準備やサポートして頂いた皆様、また、当日朝早くから準備をして頂いた育成会の皆様に心から感謝を申し上げます。

（5学年担任・大庭 才鶴）

○教育事務所から

西根地区子ども会育成会が主体となって支援している事業「稲刈り（学校行事）」に、全校児童が取り組みました。高学年児童が低学年児童に、「稲刈りの仕方」や「稲結わえ」の仕方を優しく教えていました。また、西根地区子ども会育成会の支援も手厚く、児童が安心して稲刈りに臨むことができ、「地域全体で子供たちを育む姿」を拝見することができました。美味しいお餅ができあがることを祈っています。

（文責：大河原教育事務所生涯学習担当）

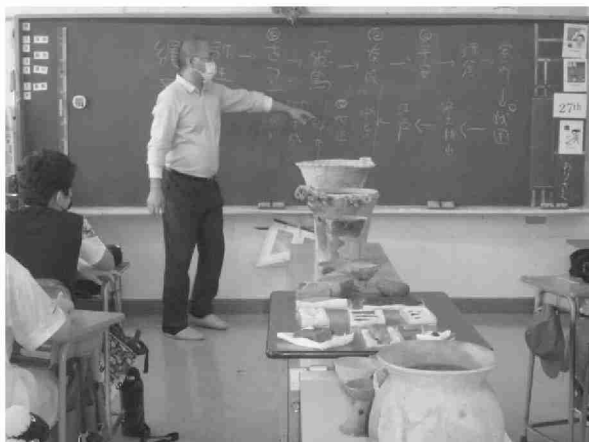


○市町名 蔵王町

○学校名 蔵王町立円田小学校
第6学年 16名

○期 日 令和3年8月27日（金）

○内 容 ・土器クリーニング体験
・町内の遺跡出土品見学
・専門職員講話



○講 師

蔵王町教育委員会生涯学習課
課長補佐（社会教育主事）佐藤 洋一 氏

○指導補助

蔵王町教育委員会生涯学習課
文化財専門員
・我妻 英子 氏
・松田 律子 氏
・渡部 真理 氏
・成澤 富士子 氏

○児童の声

今日は、土器のクリーニングの仕方と土器を見せていただきありがとうございました。土器のクリーニングでは、自分で拾ってきた土器をきれいになりました。力加減が少し難しかったけれど土器本体の色や凸凹などがよく分かってよかったです。また、谷地遺跡の色んなところからとってきた土器も見せていただき、ありがとうございました。それに、いつもは触ることも難しい土器を実際に触る体験もできて本当に嬉しかったです。それぞれの土器の解説や使い方を教えてもらったり、色んな時代の暮らしの様子がよく分かったりしたのでとてもいい勉強になりました。



2時間目に土器洗いをしてみて最初は割れないか心配でしたがスタッフの人達が教えてくれたので、心配せずに洗えたので良かったです。3時間目はいろいろな土器を見せてもらいました。その時代に大事に使っていたことについて考えることができたので、良かったです。実際に土器を触らせてもらったり、どんな使い方をしていたかを教わったりと、貴重な体験をさせてもらいました。



土器を洗ってみて土を歯ブラシでとったりするなど難しいことがありましたが、土がとれて綺麗になった土器を見る事ができてよかったです。昔、土器をどのように使っていたかなどの説明がとても分かりやすく面白かったです。土器について色々なことを教えていただきありがとうございました。

いろいろな模様の土器が見れて楽しかったです。ブラシで土器を洗うのも楽しかったです。洋一さんの土器の説明を聞いていて、あんなにたくさんさんの土器があるのになんで蔵王には博物館がないんだろうと不思議になりました。大きい土器や小さい土器、独特な模様の土器などいろいろな形の土器を見ることができて、貴重な体験ができました。

スタッフの人達に確認してもらいながら初めて土器を洗ってちょっとドキドキしたけどいい体験ができて楽しかったです。3時間目の授業の時に土器を見て、割れた土器をくっつけているのがすごいなと思ったり、土器を触った感触はツルツルだったり、冷たかったり、ザラザラしていて触ってみてすごいなと思いました。

土器を洗う体験してみて、歯ブラシを使うことを初めて知りました。擦らないで叩くことや知らないことが沢山ありました。ですが、スタッフの人達が優しく教えてくれたので良かったです。3時間目では、土器のことをたくさん教えてもらって、たくさん覚えることが出来ました。こういう体験はほとんど出来ないなので、すごく楽しかったです。



○講師から

地域に伝わる歴史や文化財を有効に活用する機会であるとともに、子どもたちに対して、自分たちの暮らす地域にも教科書にあるような歴史が存在しているんだということを知ってもらう機会として、とても意味のある時間を用意していただいていると考えています。有益な時間とするためには、講師としてのスキルアップが大切と毎度反省しています。

○教職員の声

子どもたちは、今回の学習で土器を実際に自分の手で洗ったり、地域で発掘された土器を見たりする体験を行いました。洗った土器は、7月に行った土器拾いで自分たちの手で採集した土器です。土器を採集する活動や洗う体験を通して、土器を見たり、触れたりした驚きや喜びを感じることができました。また、子どもたちは自分たちが住む地域の歴史について興味を持つ様子が見られました。今回の学習のために、ご準備やサポート頂いた皆様、また、貴重なお話を頂きました講師の佐藤洋一様に心から感謝申し上げます。



○教育事務所から

蔵王町教育委員会の文化財専門職員による遺跡発掘体験や土器クリーニング体験、専門職員による講話や町内の遺跡出土品見学は、児童にとって、当時の方々の「生活様式」や「思い・願い」について考える貴重な機会となりました。

地元の歴史を学び、発掘した土器を丁寧にクリーニングしていた児童の真剣な表情が印象的でした。

(文責：大河原教育事務所生涯学習担当)

○期 日 令和3年10月20日(水)
～10月22日(金)

○対 象 七ヶ宿町立七ヶ宿中学校
第1・2学年

○目 的

地域の職業への理解や働くことについての考えを深める。

町オンラインショップで販売する商品のPRポイントや生産者の思いを理解する。

七ヶ宿町のよさを再発見するとともに課題について考えを深める。

○事業所

(1) 職場体験

- ①七ヶ宿ダム管理所
- ②農事組合法人ライスファーム
- ③ファミリーマート+COOP 七ヶ宿店
- ④(有)はあとリゾート
- ⑤七ヶ宿町森林組合 旬の市
- ⑥七ヶ宿観光開発 道の駅

(2) 生産者訪問

- ①七ヶ宿の白炭 菓子工房すみやのくらし
- ②Book&Café こ・らっしえ
- ③やすまっしえ
- ④やまびこの森キャンプ場
- ⑤七ヶ宿観光タクシー
- ⑥横川漬物加工グループ
- ⑦株式会社ミヤギタノイ



○生徒の声

【1学年】

自然のものを活用し、クラフト体験を行いました。自然のものにもいろいろな使い方があると新しい発見ができました。綺麗なスキー場を保つためには、多くの苦労があると分かりました。

(有)はあとリゾート

接客をする際は、挨拶と接客対応が相手に伝わるような声で行うことを意識しました。初めは緊張し、声も小さかったですが、回数を重ねるにつれて緊張もほぐれ、堂々と接客を行うことができました。 七ヶ宿町森林組合 旬の市

いつも食べているお米ですが、出来上がるまでには多くの作業や苦労があり、その上で食卓に並んでいることが分かりました。今後は給食も含め、生産している方に感謝して残さず食べようと思いました。 農事組合法人ライスファーム七ヶ宿



【2学年】

とても充実した2日間でした。2日間行っている内にとっても楽しくなってきた、最後は「もう終わりか」と思ってしまうほどでした。2日間で学んだことは仕事をするの大変さと仕事の楽しさです。お客様から「ありがとう」「がんばってね」「おいしかった」などと言われると嬉しい気持ちになり仕事が楽しくなりました。

七ヶ宿町森林組合旬の市

品出しは店内を見て、少なくなっている商品を見つけて補充、確認しなくてはいけないので、難しかったです。商品を並べる際、手が滑って商品が落ちてきたりしましたが、昨日よりは慣れてきて、しっかり補充することができました。また、笑顔100%での接客が大事と学びました。

ファミリーマート+COOP 七ヶ宿店



商品はお客様に見やすいように置くこと、お客様が来店したらじゃまにならないように避けないといけないので、品出しは難しいと思いました。袋入れは、素早く、上手く入れてお客様が持ちやすいように袋の口をお客様の方に向けることが分かりました。

七ヶ宿観光開発 道の駅



○教職員の声

3日間の職場体験・生産者訪問。町内の商工観光に携わる事業所を中心に、7つのグループに分かれて、お客様に接したり、販売する商品づくりを行ったりする経験をさせていただきました。

生徒の良さを見つけていただいたり、足りないところをアドバイスいただいたりして、どの事業所でも真剣に子どもたちを成長させてくださろうとする温かさを感じました。また、直接事業所の方に質問をしたり商品ができる過程を教えてくださいいただいたりして、仕事のやりがいや大切さ、地域の課題についても知ることができました。

3日間の限られた期間に、町の事業所の方々の関わりの中で、生徒たちはぐんぐん成長している様子を実感することができました。

本当にコロナ渦の中で、たくさんの制限がある状態にもかかわらず、快く本校生徒を受け入れていただき感謝申し上げます。ありがとうございました。

1学年主任 五嶋 理



○教育事務所から

「いらっしゃいませ。」「ありがとうございました。」七ヶ宿中学校生の笑顔と心のこもった挨拶に地域の皆さんも自然と笑みがこぼれました。

各事業所を巡回したところ、どの事業所からも「よく働いてくれています。助かっています。」と七ヶ宿中学校生の真剣に取り組む姿に感心していました。事業所の方々に支えられながら生徒は職業観や地元の良さを再確認する機会となりました。

(文責：大河原教育事務所生涯学習担当)